

人文科学研究所研究叢書

29.『ツァロートの道 ユダヤ歴史・文化研究』

2002年3月30日発行

中央大学人文科学研究所 編 中央大学出版部発行

本体価格5,700円（税別）

ISBN 4-8057-4207-0

まえがき	
第一部 啓蒙の可能性	
モーゼス・メンデルスゾーン —啓蒙されたモーセ	平山 令二
十八世紀ドイツにおけるユダヤ人像の変容	飯森 伸哉
いとも幸福な出会い —ジャン・パウルとユダヤへの小さな散歩	飯塚 公夫
第二部 繰り返される試練	
異教的反ユダヤ主義 —L・クラークスの思想と反ユダヤ主義	田島 正行
ナチ体制下の反ユダヤ主義 —立法政策を中心として	白根澤 正士
ソビエト・イディッシュの運命 —1920年代ソビエトの現場から	高尾 千津子
第三部 内なるツァロート（苦難）	
カール・クラウスにおける「ユダヤ性」 —ディアスポラ・アイデンティティの戦略としての諷刺パフォーマンス	河野 英二
ヨーゼフ・ロートの手紙 —シュテファン・ツヴァイクにかかわらせて	相馬 久康
二人のユダヤ人作家 —フランツ・カフカとヘルマン・ブロッホ	入野田 眞右
アメリーを読むツェラーン	北 彰
第四部 表現の模索	
イディッシュの結婚式におけるクレズマ楽士	牧野ウーヴェ
マルク・シャガール —シュテトルに育まれた絵画	伏谷 幸子
ヴィクトル・ウルマンとテレージエンシュタット —あるいは、収容所の中かの「死の舞踏」	小林 正幸
ルイス・モロー・ゴッチョーク —アメリカのユダヤ／クレオール系作曲家	黒田 晴之
第五部 ヘブライ語	
ヘブライ語関係詞の推移について	植田 兼義
人名索引	